

白内障

馬場医院 馬場敏生先生

幅広い年齢で発症

眼球はカメラと同じ構造で、カメラのレンズに相当するのが水晶体です。水晶体は透明な組織で、光を目の中に通して、フィルムに相当する網膜と呼ばれているところにピントを合わせる役割をしています。しかし、加齢などで水晶体が濁り白内障になると、光を網膜まで導くことができなくなり、視力障害を起こしてしまうことになります。

眼球をひとつの部屋とを考えてください。あなたは網膜という壁にもたれてぼんやりと外を見ていたところ、ある時、誰かが障子を閉めたとたん、外の景色が見えなくなっていました。この見えない状態が、白内障の視力障害です。

そんな時にはどうしたら良いでしょう。そうです、障子を取り外さなくてはなりません。つまり手術をして、水晶体の濁りを取り除き、外の景色が再び見えるようにしなければならぬのです。

30万件とも40万件ともいわれる白内障手術が、毎年日本で行われています。白内障はいろいろな原因で起こるため、必ずしも高齢者の病気ではありません。私が手術した1万件あまりの統計では、年齢層は13歳から105歳までと幅広く、70歳代が42・3%、60歳代が25・1%、80歳代が17・1%で、平均では71・6歳、男女比は約1対2です。

今日では、手術技術が発達し、手術はおおよそ30分ぐらいで終わってしまい、眼内レンズ挿入も行われ、術後の厚いメガネから開放されています。術式はほぼ確立されていますので、白内障によっての見づらさが出てきたら、手術することをお勧めします。

ただし、術式がほぼ確立していても、100%安全な手術などは存在し得ません。術中、術後において、失明してしまうほどの合併症もありますので、詳しい話を専門医にお聞きになり、納得した上で手術を受けるようにしてください。とかく、白内障手術は簡単な手術との誤解をうけているものですから。
